



第16号：平成27年8月26日 中村芳中 —— 1

近年、急に話題の絵師として登場してきたのが、この芳中である。綿密に描き出す写生派の人々にとって、彼の作風はでたらめのように見えたに違いない。紅白梅の花を描くのに、太い輪郭線の丸をつくり、白と紅の色をさす。それで紅白梅を表してしまう。枝や幹にたらし込み技法を使い、まるで光琳そっくりである。『光琳画譜』を江戸で出版しており、光琳のことを良く知っていたと考えられる。大坂が活躍の舞台であり、俳句を通じて交友関係を広げていたことも知られているが、京都に生まれたらしく、生年は不明であり文政二年十一月、大坂平野町で没した。宗旨人別帳により、京笹屋町智恵光院西の亀屋八左衛門の女が妻女であったことがわかった。今後、注目を集める絵師であることは間違いない。

